

人権・いじめ・
心の教育に

世界はもっと
大きく広がる

enjoy

Film study

映画鑑賞で 自己分析しよう！

文部科学省選定映画
「郷（ごう）」
（科目：生き方・人生設計）
“当たり前”ではない日常を
私たちはどう生きるか？
今、抱えている悩みや不安に
映画がヒントを与えてくれる！

夢に近づく第一歩！チャンスをつかむマインドセット！

自己分析シートを完成させよう

① 【「郷」鑑賞前に記入】今、悩んでいることまたは
今までの経験で悔しかったことを3つ挙げて下さい。

② 【鑑賞後に記入】映画から学んだことを①に当てはめて分析しよう

映画から学んだこと・感想

自分の性格 (好き嫌いや得意不得意など)	
人にされたら嫌な事	長所
特技	苦手な事・嫌いな事
好きな事・楽しい事	好きな言葉

③ 【鑑賞後に記入】今の悩み (悔しかった経験) と、性格、映画から
学んだことを組み合わせて、どう解決し未来に繋げていこうか考えよう

大事にしたい 価値観は？	やるための 目標設定	これから やってみよう
1年以内の目標	3年後の目標	

その他、自由記述欄 (何か伝えたい事などがあれば自由に記入して下さい。)

人生の選択域を広げ
より充実した毎日を送ろう！



お問い合わせ

Letheany&Co. (レシアニー)

☎ 090-1132-7170

✉ info@letheany.com

📍 鹿児島県始良市脇元492

🌐 <https://letheany.com/>





探究学習：映画鑑賞で自己分析をしよう

Film study

中学生
以上 対象

🎓 人生の選択を考え始める中高生に、ヒントを与える映画鑑賞。



郷 僕らの道しるべ

2024上海国際映画祭ノミネート作品

2024年 / 日本 / 93分

監督：伊地知拓郎 プロデューサー：小川夏果

日本語音声、中国語または英語字幕付きでの上映が可能です。

日本の自然溢れる田舎町で生まれ育った少年岳（がく）が成長していく過程で経験する様々な困難と向き合い、懸命に生きる姿を描いている。

🎓 人生は正解のない問いの連続 考えて、悩んで、少しずつ前へ進む。

監督 伊地知 拓郎

【制作コメント】



社会の様々なルールに則り生きている私たちが、映画の中では固定概念や先入観を捨て、頭を空っぽにして作品に浸ってもらいたいという想いから「没入感」にこだわって作りました。1998年生、鹿児島県出身、北京電影学院監督学科卒業。

「郷」は、誰にでも起こりうる何気ない日常の中で、思い通りにならない人生に悩み葛藤し、予期せぬ困難と闘いながら今を一生懸命に生きる主人公の姿を高校野球の部活動で起こる人間模様を通して、ドキュメンタリータッチに描いています。《命》をテーマに日本の四季を追い、「センス・オブ・ワンダー（子どもが生まれながらに持つ不思議な感覚）」を成長した大人こそ持ち続け生きていくことの大切さを訴え、自然の移り行く様と万物が流転する中でドラマは進んでいきます。視聴者それぞれの人生と照らし合わせ、二度と訪れない今生きているこの一瞬一瞬の尊さや命の大切さを感じ、自分自身の人生と向き合う時間にしてもらえたらと願っています。

🎓 3部構成で「郷」の物語は進みます。

最後

競争

童心

無常

流転

1

【高校時代≒人間社会】

主人公岳（ガク）は憧れの野球部に入り、レギュラーを取るために厳しい練習や先輩の嫌がらせにも耐えながら練習に励む。

2

【幼少時代≒自然社会】

野球で挫折してしまった岳が偶然幼馴染との再会により子どものころを思い返し、センス・オブ・ワンダーを取り戻していく。

3

【高校転校≒命の尊さ】

同級生が突然不慮の事故に遭い亡くなった。当たり前の景色が当たり前ではないこと、二度と戻ってこないことを知る。

【高校卒業時≒命の誕生】

家庭環境に恵まれずに育った幼馴染陸（リュウ）に新しい命が誕生し、人生の喜びを共有し、岳も前を向いて歩んでいく。

🎓 学校上映参考事例 科目 | 道徳：悩んだときの対処法（土曜3時間）

未来を描くための心の道徳授業～保護者とともに～

土曜授業の道徳の時間を活用し、全校生徒と保護者の皆さまと共に、映画『郷』の鑑賞会を実施しました。上映に先立ち、生徒たちには事前課題として「悩んだときはいつもどうしているか？」をテーマにしたワークシートを配布し、上映前の自分の気持ちを振り返る機会を設けました。鑑賞後には、映画のテーマをより深く理解するため、伊地知監督と小川プロデューサーによる講話にて《生きる上で大切にしていること》や《失敗したときの乗り越え方》について話し、生徒たちは自身の経験と照らし合わせながら学びを深めました。また、映画を観た直後の新鮮な気持ちを残すため、感想文の時間を設け、鑑賞前と鑑賞後の心の変化や学びを記録。映画を通じて人生を見つめ直し、多くの生徒たちがこれからの生き方を考える貴重な機会となったとの報告を頂きました。



映画「郷」で育む資質・能力3つの「ごう」



探究学習GO！プログラム

郷

家族・地域・文化

ふるさと・つながりを感じる

業

学業・社会・未来

生き方を考える

GO!

挑戦・発信・実践

行動力を育む

探究

目標

思いやりの心を“愛=いつくしみ”と表現し、自分の《ごう》を見つけ、【智・人・命】3つの愛を育てていく。

智

単なる知識や情報の蓄積ではなく物事の本質を見極め、思いやりのある知性を育む

いつくしみ

愛

人間理解を深め、人の痛みに気づき行動に移せる教養を身につける

人

命

他者や自然と共存し身近にある幸せや喜びに気づき命を大切にできる心を育む

具体的なプログラム内容（例）

① 課題の設定

【鑑賞前後どちらでもOK】
目標をもとに課題を設定する

- ▶ 自分はどんな人生を歩みたいのか？
- ▶ どんな人に憧れ、どんな人になりたいか？
- ▶好きなことを仕事にするには？
- ▶ 今、自分にできることは何か？
- ▶ なぜ差別はいけないのか？

② 情報の収集

【鑑賞前後どちらでもOK】
実体験など情報を集める

- ▶ 自分と同じような悩みや経験を聞き比較してみる
- ▶ 親や様々な世代に人生についてインタビューする
- ▶ Uターン者やTターン者、鹿児島から出たことがない人など県民のリアルな声を聞く
- ▶ 自分の幸せは？などのアンケートを取る

④ まとめ・表現

【鑑賞後】分析シートを完成させ、発表し、学びを深める

- ▶ ICT活用ディスカッション
「地方は本当に生きづらいのか？」
「限りある残りの学生生活をどう過ごすか？」
- ▶ **国際交流！**
海外とオンラインで繋げて「郷」を通じた国際交流が可能！中国語または英語圏での開催！
- ▶ ワークシートを完成させ、夢や目標を可視化する

③ 情報の分析

【鑑賞後】映画の内容と調べた情報を比較し、整理・分析する

- ▶ 主人公岳の生き方と自分の経験を重ねて考察
- ▶ 「仕事とは何か」「何のために働くのか」を考える
- ▶ 田舎と都会暮らしの比較と分析
- ▶ 岳の「苦悩」と現実問題で起きる自分自身の悩みを比較し、対処法を考える
- ▶ 自分にとって生きる上で何が大切かを整理する

1, 最小パック：上映会＋振り返り＝計2～3コマ

2, 探究パック：①～④全て1コマずつ＋講話付き上映会2コマ＝計6コマ

「映画を観る」だけで終わらず、主体的な学びへとつなげる

実施背景

近年、日本社会における子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。デジタル化の進展により、豊富な情報に触れる機会が増える一方、リアルな人間関係の希薄化や、自己理解・他者理解の不足といった課題が顕著になっています。特に、中学・高校生という多感な時期において、自己肯定感の低下や将来への不安を抱えるケースが増加しており、心のケアや社会性を育む教育の重要性が高まっています。このような背景のもと、映画『郷』を活用した授業を以下のような重要な意義を掲げ、実施致します。

目的・意義

自己理解と自己肯定感の向上

「郷」は、自然豊かな日本の原風景とともに、生きることの本质や、人としての在り方を静かに問いかける作品です。生徒自身が抱える悩みや将来への不安に向き合い、自分を受け入れるきっかけを提供し、自己受容を深めることを促します。

他者理解・人間関係の構築

他者理解・人間関係の構築

困難に立ち向かう主人公の姿は、人との関わりが希薄になりがちな現代の子どもたちにとって、大切な気づきを与えます。生徒だけでなく先生や保護者の方にも鑑賞いただくことで、人と人との絆を再認識する機会を提供します。

道德教育の充実・質的向上

映画鑑賞後のワークシートや外部講師との意見交換を通じて自分自身の「心の変化」に気づくプロセスを設けることで生徒に新しい発見を与えることができます。また、困難や失敗をどのように乗り越えるかといった人生の指針を学ぶ道德教育の充実にもつながります。

主体的な生き方への意識づけ

今を大切に生きることを考えることで、「生きる力」や「人としての在り方」を再認識し、自分の価値観を明確にし、将来の夢や目標達成、自己実現に向けた意欲を高めます。



過去開催校 感想文

今という時間は一瞬しかなく、今という青春は二度と戻ってくることはない。自分のやりたいこと、今しかできないことをすべし。嫌になったらまた別のところに行けばいい。友達は一生ものというけれど、そうとは限らない。いつ、どんなことで居なくなるかは誰にも分からない。だからこそ大切にしたい。そんなことに気づける映画でした。 **男子中学生**

人間関係や将来の夢など、いろいろな悩みを抱えて過ごす主人公を見て、とても共感できました。私は今、人間関係で悩んでいることにはないですが、これからも自分に起こったらどうしようと、未来について考えることができ、人の「命」と「悩み」について学ぶ機会となって良かったと思いました。今日のことを忘れずに過ごしていきたいです。 **女子高校生**

感動した。特にお祖母さんが戦争の話をしたとき、今の時代伝えられる人がいなくなっているし、忘れてしまっていること。だけど僕たちが生きていた昔のことを思い出した。僕たちが生きてきた時代を今の子どもたちが知った時にどう感じるのか？どう感じて生きていくのか？これはたくさん子どもたちに観てもらいたい作品。 **教職員**

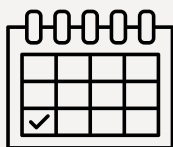
実施方法

ヒアリング



ご不明点やご要望、ご予算をお聞きます。

日程と学年の選定



道德や人権啓発など、どの授業に取り入れるかを選定。

開催7日前にデータ送付
(ブルーレイまたはデータ)

上映機器の準備・チェック



体育館や視聴覚室、教室で鑑賞可能。接続の確認。

事前にワークシートを生徒に配布



鑑賞前に自分自身と向き合う時間を設け心の状態を知る。

上映会実施

体育館での実施が多く、プロジェクターとスクリーン（白い壁またはモニター）があればどこでも実施が可能です。上映費用は、映画著作権料・ワークシート込み生徒様一人700円前後（保護者様または学校予算より捻出／最低価格税込55,000円）にて開催（多少の人数の変動や生徒数の多い学校様はご相談下さい）。※ブルーレイは「レンタル」になりますので返却いただく必要がございます。ご注意ください。※監督またはプロデューサー講演付き上映会の場合は、別途講師料を頂戴しております。



【事前オンライン視聴可！】
授業導入・自主上映開催のための
事前視聴お申込みQR（※有料）

※まずは映画を観てから検討したいという方は、オンラインでの映画鑑賞が可能です（有料視聴）。左QRコードよりお手続きの上、ご視聴下さい。なお、1回のご購入で2名様のご視聴が可能。開催決定後、上映用ブルーレイの貸出期間は上映開催日翌日までとなります。（返却予定日超過の場合、延長料金が一日5,000円発生致しますのでご了承下さい。）お気軽にお問い合わせ下さい。



● マナビィ・メールマガジン第329号(令和7年3月24日配信)

◆ 文部科学省選定映画「郷(ごう)」を活用した学習活動等のご紹介

この映画は「命」をテーマに、四季を追い自然の移り行く様と万物の流転が描かれており、この瞬間の尊さを感じながら自己理解と他者理解を深める時間をあたえてくれる作品となっています。人生の選択を考え始める青少年にヒントを与え心の成長の手助けとなる学習教材としての活用や教職員を対象とした研修及び社会福祉施設における上映会などにおいても、幅広く活用されています。

【活用事例】

HP: https://letheany.com/service/film-education_gou/

□ お問合せ先

Letheany & Co.(レシアニー) 教育事業部

電話: 0995-70-1622

E-mail: info@letheany.com

□ 文部科学省窓口

総合教育政策局地域学習推進課 地域学習推進係

E-mail: chisui@mext.go.jp

◆ 2024年12月24日掲載 南日本新聞：観客コメント

南 日 本 新 聞

パート

知念小百合(50)

始良市の伊地知拓郎監督が制作した長編映画「郷(ごう)」を、霧島

市であった上映会で観賞した。高校野球で挫折した球児が再起していく姿が描かれている。心が洗われるようだった。

生きていく上で、しがらみや心の支えになるものがある。競争や童心、無常、流転。そんなテーマに沿って映画は展開されていた。

せりふが少ない分、主人公の複雑な心情が映像や音楽とよくリンクしていた。スクリーンに映る地元の景色や季節の移ろいに、いつもそば

にある自然の包容力を感じた。

万物流転の中でもその一瞬一瞬を大事にして感受性を失わず、生きる力にしたい。失敗や挫折を経験や方向転換と捉えたい。

自分なりに納得できる人生の解を見いだせたらいい。映画を見て生き方を教わった気がした。

一緒に見た娘もそうであってほしいと思う。予測困難な時代に感じる生きづらさは、あらゆる世代に共通する思いかもしれない。「自然と共に生きていく」。伊地知監督の舞台あいさつを忘れないように日々を過ごした

映画「郷」に生き方を教わった

い。

(始良市)

「郷 ～僕らの道しるべ～」を鑑賞して

3年(1)組(7)番 氏名()

正直、セリフが少なく、音や風景から感情などを読み取ることが今の僕では、難しかった。しかし、これから色々な経験を重ねていくことで20才、30才、40才と年齢が上がっていくと、見た感じ方がまったく別のものになると思っている。だから、今、この時期にこの作品を知ることができたこと、そしてまた大人になってから見たいと思えたことがとてもよかった。これから生きていく上で自分の郷を大切にしていけるとともに新たな地にも足を踏み入れていきたい。

映画「郷」を観て

1年(1)組(4)番 氏名()

☆感想

今回の「郷」という映画を見、感じた事は何事に対しても、(=) 事をまっすぐ(=)につきあふ、自分の意見を持つこと、大事にしたいと思いはした。自分の(=)事を相対(=)する左右(=)の(=)手(=)で(=)き(=)る(=)大(=)切(=)な(=)命(=)に(=)対(=)して(=)の(=)大(=)切(=)な(=)改(=)め(=)、考(=)え(=)る(=)こ(=)と(=)を(=)ま(=)した。自分(=)に(=)対(=)して(=)大(=)切(=)な(=)物(=)や、と(=)ん(=)な(=)気(=)持(=)ち(=)を(=)持(=)て(=)お(=)い(=)て(=)自分(=)を(=)見(=)ぬ(=)目(=)線(=)を(=)と(=)る(=)こ(=)と(=)が(=)あ(=)ら(=)い(=)い(=)作(=)品(=)だ(=)と(=)思(=)った。

1年(2)組(22)番 氏名()

☆感想

今回、この映画を観て色々なことを考えさせられた。高校下の生活や少年時代の思い出など懐かしい気持ちにもなった。高校時代の人間関係や部活動、将来の夢などがリアルに表現されていておもしろかった。自分はあのような厳しい関係は嫌だと思った。少年時代は、自然の中で遊んだりしたのを思い出した。もう一度あの頃に戻りたいという感情も生まれた。映画を観ていくうえで自分の人生と照らし合わせながら見るととてもおもしろかった。これからの道とどのようにするかというのを考えさせられた。